

種別	住民意見	対応方針	具体的回答内容
オープンハウス	構想の内容については、全てを一度にできるものではないと思うので、どれからどのように進めていきたいのか、スケジュール案を示してほしい。そうでなければ、遠い未来の話なのか、数年後の話なのか、区別できず、構想内容に対する自分の立ち位置がイメージできない。自分としては、進めやすい構想から始めた方がいいのではないか。	先端的サービスの実施については、申請書において時間軸を示し、スケジュール感をイメージできるようにした。	—
インタビュー・アンケート	スマートフォンやタブレットを活用する際、操作が不安なので、電話や説明書以外にも直接人が対面で教えてくれるサービスもあってほしい。	スマートフォンやタブレットの利用に関して支援するアドバイザーの配置をする。	—
市域全体向け市長キャラバン （オンライン住民説明会）	インターネット投票については、技術的な秘匿性よりも、投票行為に対する秘匿性の保証が難しいと思うが、その辺はどのように担保するか。		誰かに投票を強要されるパターンなどが想定される。再投票できるようにする等の対策を考えている。開票についてはマイナとブロックチェーンを組み合わせて、外部からのアクセスを追跡可能なシステムを構築する。
市域全体向け市長キャラバン （オンライン住民説明会）	なぜ今つくば市でスーパーシティ構想を進める必要があるのか？	—	つくばの使命として、研究学園都市として国が作られた街である以上、そこで生まれた技術を社会に還元していくことが必要だと考えている。今まで解決できなかった問題をデジタル技術で解決できないか。サービスの選択肢を増やして、住民の幸福を最大化する。ディストピアとなるという指摘も多いが、むしろ住民のエンパワー、選択肢の提供→自己決定のプロセスを通じた市民の成長というものを進めていく。
市域全体向け市長キャラバン （オンライン住民説明会）	市民の不安や疑問をどのように解消されようとしているか関心がある。投資の規模がどれくらいで、どのように暮らしが便利になるか、きめ細かい支援が始まるか、生活者の目線で説明してほしい。また、情報セキュリティ、漏洩対策、海外企業への委託・再委託禁止などの取組について、最近の事件や米国の中国企業への規制の動向にも触れ、説明してほしい。	—	不安や疑問を1つ1つ丁寧に説明し、解消したい。ベースは「困りごと」。区長などもしっかり協議して進めていく。投資の規模はまだ不明だが、誰が何をいつどれだけ払うかといったことは今検討しているところである。海外企業への委託についてもチェックできる体制を構築する。
小田向け市長キャラバン （対面住民合説明会）	小田では、「地域の困った」を地域で考え、解決に向けて、自治体や民間企業等と一緒に取り組んでいく考えである。小田には、スーパーシティへ取り組む土壌ができていますので、是非一緒にやっていきたい。	—	—

種別	住民意見	対応方針	具体的回答内容
小田向け市長キャラバン （対面住民合説明会）	小田には一人暮らしの高齢者が多いが、こういった方々が安全安心に外出できる支援はどのようにするのか？	つくばアプリ上での地域ボランティアの仕組みを検討する。	「全部を1でやってもらう」ということではない。人の助けもきちんと取り入れながら少しずつ良くなっていくことが大事だと思っている。例えば、住民が事前にアプリに登録し、「バスに乗りたい人が何時に乗る」という操作をしたら、事前に登録した地域の住民に通知が行って、協力できる人がその人を手伝ってもらう仕組みは、それほど難しいことではない。これまでは、家族へ電話してお願いしていたようなことを、地域の方々と繋がりやすくすることで、一緒に暮らしやすい町を作っていけるのではという期待感がある。
宝陽台向け市長キャラバン （対面住民合説明会）	パーソナルモビリティを一人乗りだけでな2人乗りのものも提案してほしい。（1人で行動できなくなると2人乗りが必要）	電動車いすの長さの緩和を求める規制緩和事項を追加した。	つくばでも2年前に、2人乗りのモビリティの実証実験しようとした経緯がある。その際、乗り物の大きさに関する規制により苦労した。まさに、スーパーシティに認定されれば、この規制を緩和することができるようになる。誰かに支援されながらという視点は非常に重要であり、2人乗りの問題についても継続して検討していく。
宝陽台向け市長キャラバン （対面住民合説明会）	デジタルインフラの整備について、タブレットの導入費用の負担はどうなるのか？また、パーソナルモビリティを利用する際の費用は市民負担か？	—	無償貸出や市場価格より安く貸出するなどを検討中である。 また、パーソナルモビリティの仕組みを構築する際の初期費用については、国の補助金、市の財源、民間投資等で調整予定である、市民負担はない。今後サービスを利用いただく際は、例えば公共料金利用時やつくバスやつくタクなどの公共交通の利用と同じような常識の範囲内の金額を徴収する可能性はある。
宝陽台向け市長キャラバン （対面住民合説明会）	先端的サービスについて、パーソナルモビリティなどの移動範囲は、つくば市内のみか？	—	国家戦略特区制度においては、自治体ごととなるため、つくば市内のみの実施となる。 内閣府に区域指定される自治体数は5自治体程度認定だが、国としてもいいものはどんどん近隣地域へ展開していく考えである。民間視点でも、つくば市内だけでなく全国展開していくことでサービスとして成り立っていけるということになる。よって、つくば市でも近隣への自治体への展開も念頭に検討していきたいと考えている。

種別	住民意見	対応方針	具体的回答内容
行政経営懇談会	高齢者へのタブレット配布については、民間警備会社が見守りに関する製品を既に出していると思うので、そういったところと一緒に取り組むのはどうか。一台で教育や防犯にも繋げることができるのではないか。また、タブレットの配布というよりも、市職員が夜間対応もするなど、高齢者が会話をする機会をつくるほうが良いのではないか。	防犯にかかる先端的サービスを追加。	タブレットを配布して終了というわけではなく、人と人のコミュニケーションは引き続き大事であると考えている。これについて、行政サービスのデジタル化となったとき、遠隔の方を対象に利便性を挙げるということもあるが、市役所側の業務負担も下がる可能性が同時にある。現状、市役所職員が普段の事務作業に追われ、市民と直接話す時間が取れない、議論や調べものをする時間がない。しかし、デジタル化により職員の事務負担が減れば、職員が周辺地区に足を運び、地域の人と直接話す機会も増えるのではないかと考えている。
行政経営懇談会	「つくばスーパーサイエンスシティ」という名称も、その名称から一見して目指す中身が良く分からないという点でインパクトに欠けるように思う。	以下の副題を設定し、つくばスーパーサイエンスシティ構想の内容を分かりやすく伝える。「科学で新たな選択肢を 人々に多様な幸せを」	—
区長説明（宝陽台）	地域のために自分にできることをやっていきたいと思っている。 宝陽台が対象地域となることについて、大変感謝。 2021年度宝陽台自治会役員主要業務（案）にも、スマートシティ業務を入れている。	—	—
区長説明（小田）	小田住民は、長くこの地域に住んでいる為、現在の生活に慣れてしまっていることも多い。しかし、この地での生活に課題があることに変わりはない。 スーパーシティの取組で、小田を選んでもらえたのであれば、この機会に小田での生活をもっと良くしていく為に積極的に動いていきたい。	—	—
つくば市議会全員協議会	データ連携基盤では市民の個人情報も取り扱うことになると思うが、情報の取り扱いが倫理的に正しく行われているのかをどのようにチェックするのか。	—	セキュリティポリシー等に則ってデータの取扱いについてマネジメントしていく。市が運営主体であるデータ連携基盤を介し民間事業者同士がデータのやり取りをする際の倫理的妥当性についてチェックする仕組みについては今後検討していきたい。

種別	住民意見	対応方針	具体的回答内容
つくば市議会全員協議会	住民合意で十分に意見を聞き、合意がない状態で進めることがないようにしてもらいたい。	—	強制的にサービスを提供することにはならない。住民投票等の結果で区域としてサービスの実装が決定したとしても、そのサービスを使用するか否かは各個人が選択し、その選択によって不利益を被らないような仕組みを作らなければならないと考えている。